

軍極秘

大和機密第一號、六

昭和二十年四月廿日

五月九日提出

別表

軍艦大和戦闘詳報

自昭和二十年四月六日
至四月七日

軍艦大和

2282

同覽

禁煙部

目次

- 一 形勢 (略)
- 二 討 函 (略)
- 三 經 過 (略)
- 四 令達報告 (略)
- 五 戦果被害
- 六 我兵力現狀 (略)
- 七 参考事項

一 形勢ニ計畫(略)

三 戰闘經過

日 時

五月一五。〇
六月一五。〇

七日。三。〇

〇三四五
〇六。〇

概 要

昨電令作第六。七號受領

11B(大和矢矧)朝霜初霜霞

風雪風)朝霜初霜霞

徳山沖出撃

細島、二五度一。湮ニ於テ佐伯空水偵敵潛

ランキモノヲ探知攻撃ス

豊後水道通過 深島南端二四。度ニ五

湮ニ於テ二四。度ニ変針第一警戒航行序

列ニ占位ス速力ニ二節一斉回頭之字運

動ニ法時刻法

大隅海峡通過 第二警戒航行序列ニ占位ス

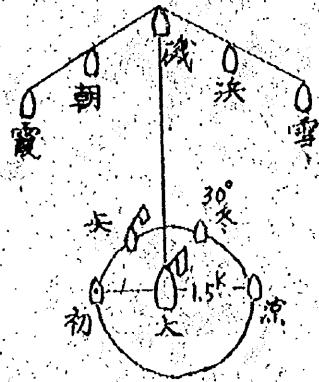
針路ニ二。度速力ニ二節一斉回頭之字運

動ニ法別法時刻法

佐多岬、一九三度八湮ニ於テ二八。度ニ変針

第三警戒航行序列ニ占位ス

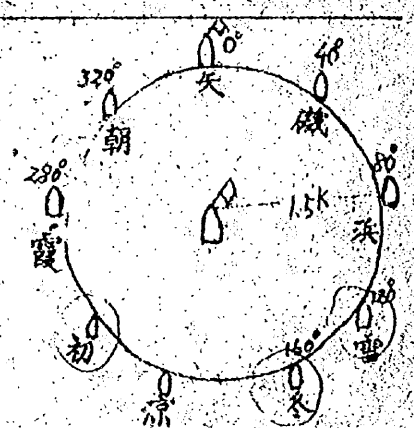
記 事



一法時刻法時刻隔々五部五分セルモノナリ

第三警戒航行序列

一四。 一五。度方向四。對敵艦上機七機ヲ認ム
 一。一四。 二五。度四五料ニ敵飛行艇二機IBニ觸接セル
 ヲ認ム
 一。一六。 一八。度ニ右ニ脊回頭
 一。一七。 先觸接機ニ對シテ副砲射擊開始
 一。一八。 射擊ヲ止ム觸接機ヲ雲中ニ見失フ
 一。二〇。 一〇。度ニ右ニ脊回頭
 一。四五。 一六。度ニ左ニ脊回頭 速力ニ。節
 一。五七。 二二。度ニ右ニ脊回頭
 一。一一。 一八。度方向五料 先觸接機ヲ發見ニ四度
 右ニ脊回頭 速力ニ四節
 一。一九。 二七。度ニ右ニ脊回頭
 一。二五。 二四。度ニ左ニ脊回頭
 一。二九。 二五。度ニ左ニ脊回頭豫定航路ニ向フ
 速力ニ二節
 一。三五。 二七。度方向四。料ニ敵艦上機七機發見
 一。四一。 一八。度ニ左ニ脊回頭



一四四 之字運動再興
 一三三 五。度四五料ニ大島輸送隊ヲ認ム
 一三二 一三。度方向五。料ニ敵艦上機一五。機ヲ認ム
 一三〇 速力二四節ノ之字運動ヲ止ム
 一二九 先飛行機ニ對シ射撃開始
 一二八 單獨左ニ回避ス針路一〇。度
 一二七 一〇。度ニ左ニ奇回頭
 一二六 九。度方向ヨリ SB2C 数機急降下ニシテ一機撃墜
 一二五 單獨面航ニ回避 最大戦速
 一二四 後擋附近ニ中型爆弾ニ命中
 一二三 後部射撃指揮所ニ番副砲十三號電探
 一二二 破壤
 一二一 左七。度七。〇。米ニ雷撃機五機向首ス
 一一〇 單獨右ニ回避ス
 一〇九 左九。度一。〇。米ニ雷跡三ヲ認ム
 一〇八 左艦前部ニ魚雷一命中
 一〇七 右艦尾ヨリ SB2C 数機急降下ニシテ

面航ニ面避ス一機撃墜
 一三〇〇 一八〇度ニ定針
 一三〇〇 二〇〇度方向ニ料ニ敵新目標五機ヲ認ム
 一三〇〇 二〇〇度ニ右一斉回頭
 一三二七 速度ニ二節
 一三三三 左六〇度四〇〇米ニ雷撃機二機向首ス
 單獨左ニ回避
 一三三四 左五〇度二〇〇米ニ雷跡六ヲ認ム
 一三三七 左艦中部ニ魚雷三命中
 副航取航ヲトリイキマセテ故障
 一三四〇 二二〇度ニ右一斉回頭
 一三四一 左六〇度七〇〇米ニ雷跡四ヲ認ム
 一三四二 單獨左ニ回避
 艦首五〇米ニ雷撃機一機撃墜
 一三四四 左艦中部ニ魚雷二命中
 副航中央ニ固定ニ五度ニ変針
 一三四五 右艦首ヨリ敵機急降下ニ入ル

一四〇。
單獨左ニ面遊

左舷ニSBXCニ機撃墜
右艦首ヨリSBXC数機急降下スル

一四〇。
一四〇。五

單獨右ニ面遊
左舷中部ニ中型爆彈三命中
右六。度八。〇。米ニ雷跡一ヲ認メ

一四〇。七
一四一。

右舷中部ニ魚雷一命中
左六。度一。〇。米ニ雷跡四ヲ認メ
單獨取舵ニ面遊

一四一。二

左舷中部及後部ニ魚雷二命中
〇。度ニ定針増速十二節
傾斜左八六度

一四一。五

左九。度一。〇。米ニ雷跡一ヲ認メ
取舵ニ面遊

一四一。七

左舷中部ニ魚雷一命中
傾斜急激ニ増加ス

一四六〇 傾斜左へ二〇度
一四二三 前後部砲塔誘爆沈没

四 今達報告 (略)

五 戦果被害

(1) 戦果

撃墜 三機

撃破 二十機

(2) 被害

沈没 (戦死艦長以下三四九名)

六 參考事項 (戰訓)

一 作戰用兵之部

水上部隊ヲ特攻隊トシテ突入セシム場合ハ其地航空部隊ト緊密ナル連繫ヲ絶對要件トシ極力制空權ヲ確保スルト共ニ天象地象ヲ利用スル等突入前徒ニ敵機好餌トナラシメザル如ク萬人ヲ策ヲ講ズルヲ要ス

(1) 今次水上特攻隊突入作戰ハ我航空部隊總攻撃ニ策應シテ實施セラレシモ敵着力ナル機動部隊尚殘存シ且天候ガ我制空隊哨戒並ニ對空砲戰績施シ不如意ナル等敵死シ不利ナル狀況ニ在リ甚大ナル犧牲ヲ拂ヒテ徒ニ非島沖海戰戰訓ヲ再認識セル感アル遺憾トス

突入時機關シテハ計畫ニ捉ルニトテ友軍機戰果並ニ敵情及天象等ヲ考慮シ之ガ選定ヲ適切ナラシムルヲ肝要ナリ

(2) 戰況逼迫セル場合ニ免角焦慮感ニカレテ計畫準備ニ餘裕ナキヲ常トスルモ特攻兵器ハ別トシテハ後殘存驅逐艦等ヲ以テ此種特攻作戰成功ヲ期セシムガ爲メ慎重ニ計畫ヲ進メ事前準備奇及的綿密ニ行フヲ要アリ

思ヒ付キ作戰精銳部隊(艦船)ヲモエテ徒死セシムルニ過ギス

〔砲戰之部〕

二 機銃角度式照準器極々有効ナルモト認ム

今次戦斗ニ於テハ視界不良轉舵傾斜等ニ因リ確認セシ撃墜機数多カラガ
リモ從來照準器ニ比シ射撃精度良好ニテヨク集中セリ

(註)本艦本照準器換装約三箇月訓練ヲ實施セリ

三 從動照準装置附設機銃照準装置機銃ト距離大ナル時集中角修正装置
ヲ是非トモ必要トス

機銃射撃精度良好ナリシモ抱ラス撃墜機数少キソ理由ハ敵機ニ對スル照
準装置ト機銃ト集中角修正不適切ナルニ因ルモト認ム多數機同時來襲時
機械的自動調整装置ヲクシテ之ヲ其都度指揮官自測ニテ苗頭調整輪ニテ
修正スルトハ實施不可能ナリ集中彈ノ中心ヲ目標直達得ザル多數 命中彈
ヲ得ザルコトハ白明ノ理ナリ

四 聯裝機銃ハ艦轉舵被害等ニ依リ一度乃至二度傾斜スルモ旋回圓滑ナラ
ズル如ク機構改善ノ要切ナルモノアリ

艦船ノ爆撃回避ニ於テ砲力發揮ヲ考慮スルコトナク高速ニ依ルコトニ從來戰
訓モ明カナリ但轉舵中砲力發揮ニ關シテハ最善ノ努力ヲ拂フベク之ガ
根本問題ハ傾斜中ニ於テモ照準容易ナラズルコトニ在リ之ガ爲旋動部ト横
輓輪ト共ニ縱輓輪ヲモ挿入スル要アリト認ム

〔其他〕

五 敵機、我水上艦船に對する戰法、特ニ斬新ナルモノヲ認メザルモ、菲島沖海戰此シ

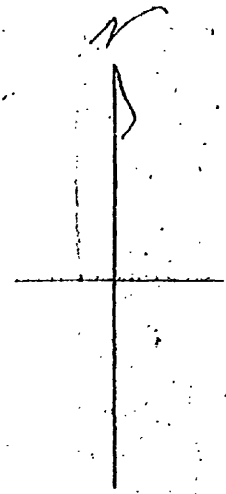
戰、爆雷ノ協同攻撃法ハ層巧妙トナル感アリ

當日雲高低ク視角不良ナルニモ抱ラズ、編隊ガ克ク連繫ヲ保持シ混亂ス
ルトナク同時異方向ヨリ殺到シ被害ヲ直ニ此弱点虚隙ヲ狙ヒ反復攻撃

ヲ敢行セリ

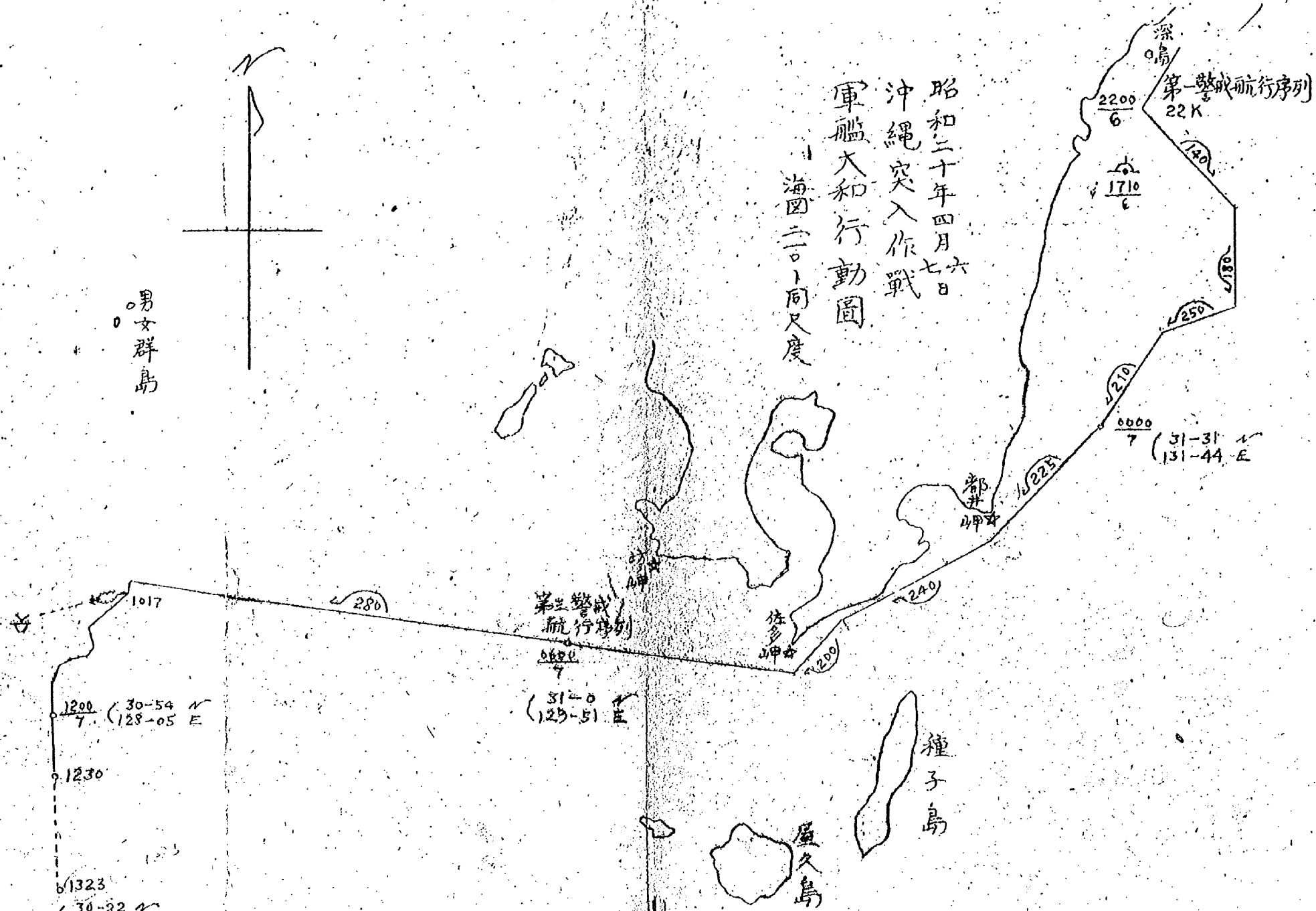
六 敵機ハ被彈防火對策ハ略完全ニ近キモノト認メ、我ガ方機銃彈ハ相當命
中シ命中ニ依リ火ヲ發スルモ多數アリシモ間モナク消火シ撃墜スル至ラザリシモ
ノ極メテ多カリキ

男女群島



昭和三十年四月七日
沖繩突入作戰
軍艦大和行動圖

海圖二〇一〇同尺度

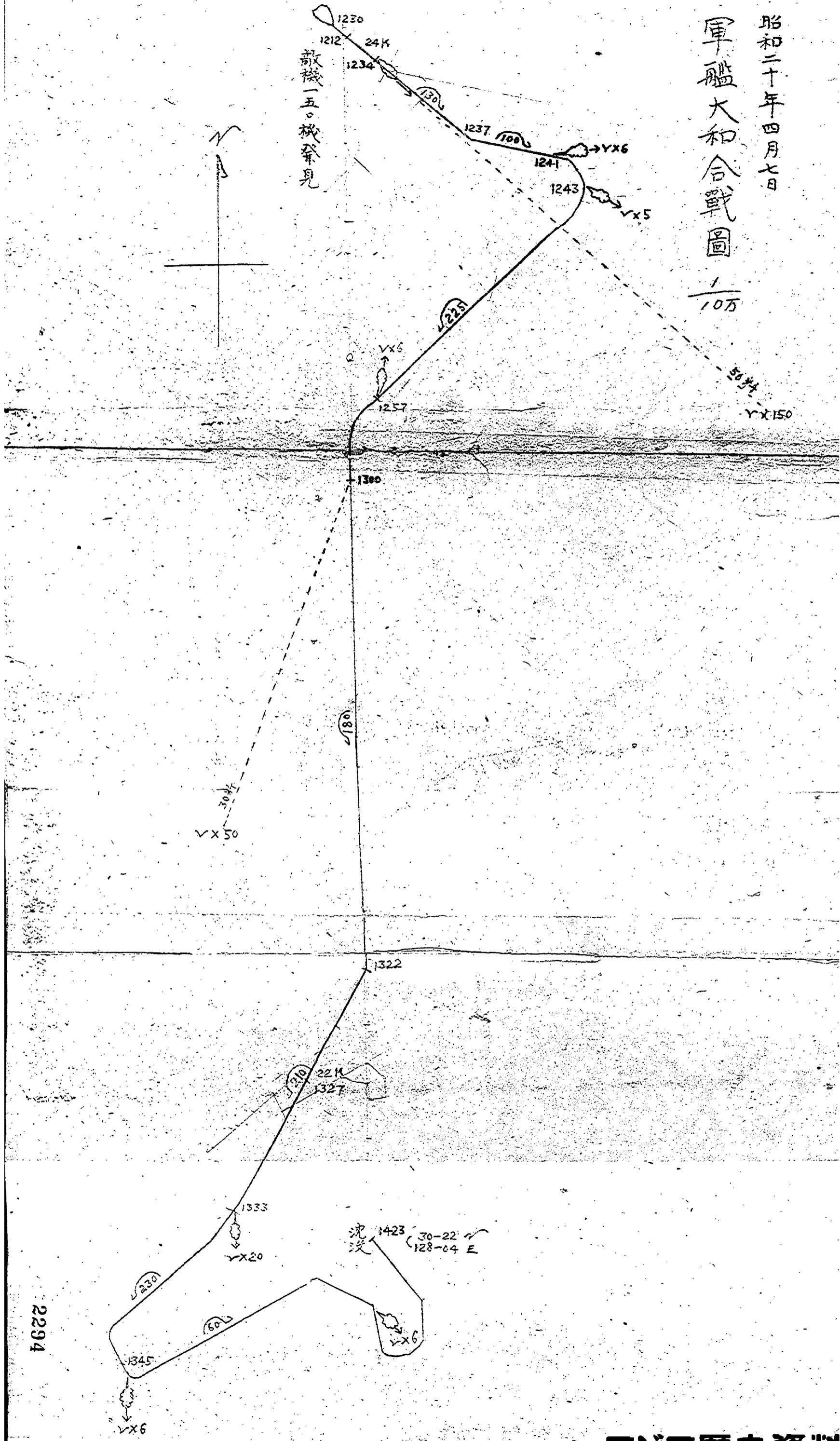
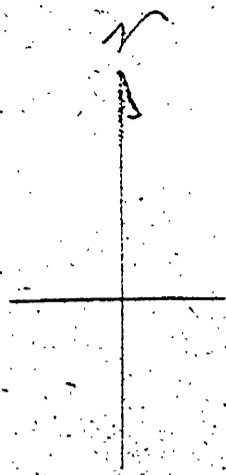


昭和二十年四月七日

軍艦大和合戦圖

1/10万

敵機一五〇機発見



2294